

Japanese Welfare Society in Australia



Hope Connection Newsletter No. 30

ホープコネクションニュースレター第 30号 発行日2004年7月1日 発行者 Hope Connection Inc.
住所 / 郵便宛先 c/o Migrant Resource Centre, 40 Grattan St. Prahran VIC 3181 電話 (電話相談兼用) 0408-574-824
* Hope Connection Inc. はビクトリア州政府に登録された非営利非宗教の社会福祉団体です *
ホームページ : <http://members.optushome.com.au/hopec> e-mail: hopec@optushome.com.au

ホープコネクションからのごあいさつ

足元をお祭りみたいに、にぎやかに取り巻く落ち葉を踏みしめ散歩をすると、街のにおい、木のにおいがしてきます。何千年も昔から、木は人間の暮らしの中で大きな役割をしてきました。その一本一本に秘められたエネルギーは、私たちの創造を遥かに超えるものです。その木から割り箸は作られ、右から左へ捨てられています。一年間に使う割り箸は、どのくらいなのでしょう。そしてどれほどの木材を使っているのでしょうか。外国からも割り箸を輸入していて、その国々の森林を削って、人々の生活を危機にさらしているのでは? “森と造る・森と語る”(稲本 正 編)の本の中で、今、世界の熱帯雨林は危機にさらされていて、その森を守るため、何をすべきか、人と自然の関係・共存の道などを訴えています。森の大切さ

を考えると、それが私達にとって自然保護への第一歩なのかもしれません。8月のカルチャースクールは「環境」をテーマにしたセミナーが予定されています。詳細は、当ニュースレターの3ページをご覧ください。是非ご参加ください。

さて、最近、新聞、ラジオなどで女性への暴力が問題となっています。ヴィクトリア州の統計によれば(2000 - 2001年度)、女性(15 - 44才)の死亡原因の第1位は、「自殺」となっており、その半数以上がDV(ドメスティック・バイオレンス)に関係している、と報告されています。今回のニュースレターでは、DVについての記事を掲載しました。被害にあわれている方は、沈黙することなく記事を参考にされ、しかるべき機関に相談しましょう。

カルチャースクールレポート: メルボルンによろこそ、新来豪者のための生活情報案内

去る5月22日、「メルボルンによろこそ、新来豪者のための生活情報案内」を開催しました。賃貸住宅のさがし方、公共交通機関の利用の仕方、教育、医療システムについての解説、銀行口座の開き方、車の運転についてなど、生活に欠かせない情報をたっぷり盛り込んだ内容で、大変好評でした。今回はこれらの情報に加え、安全面に関する諸注意なども取り入れました。飲み物に睡眠薬を入れられ、知らぬ間に女性がレイプされたり、物が取られたりといったケースもありますので、十分な注意が必要です。

当日は、こんなことを知っているのと得ですよ、といった「生活の知恵」なども披露されました。たとえば、近郊のバス、電車、トラムは共通の乗車券が使えますが、2時間券の乗車チケットを購入し、機械に差し込む(validate) 時間を工夫すれば、3時間近く利用することもできる(かりに午前9時2分に機械に入れたとすると12時まで有効と印字される。しかし8時59分では11時までしか使えない)など。あるいは、銀行口座開設にあたって、定期預金などする場合は、Tax File Number を取得し、銀行に登録すると、利息にかかる税金(通常50%近いです)を避けることができることなどもお話ししました。

また各 City Council が出している情報誌、Community Directory

が、チャイルドケアなど身近なサービスを利用したり、どこかスポーツクラブに加入してみたいといった場合、あるいは離婚などの法律相談やカウンセリングなどのサービスについても役立つ情報が掲載されていることなどもご紹介しました。

今回参加された方は、比較的若い方が多く、お子さんの保育所、学校選びなどについて質問をされていました。中には1日前に来たばかりという方までいらっしゃって、日本食料店はどこにありますかと、早速地図を広げて質問されていました。参加された皆さんは、新しい生活への不安がいつの間にか消え、ホープのメンバーと懇談するうちに色々試してみようという期待を大いに抱かれたようでした。

毎年この時期に新しくメルボルンに来られた方のセミナーを開催して、早いもので今年で8回目となりました。会員が自分の得意な分野を担当、講師となる形式で進めておりますが、わたしどもの情報量も増え、内容も充実してきております。今回セミナーに参加できなかった方は、電話相談でもこうした情報を提供できますので、お気軽にご利用いただきたいと思います。0408-574-824、月曜から金曜午前10時から午後3時まで受け付けております。

ドメスティック・バイオレンスについて理解を深めるために(1) ソーシャルワーカー 蝶谷綾子

はじめに

どんな人でも大切な人や愛している人とは幸せな関係や家庭を

築いていきたいと思うものです。残念なことに、自分が信じていた相手から暴力を振るわれたり、ひどい言葉や行動で心を深く傷つ

けられたりする状態 ドメスティック・バイオレンス に耐えている女性は少なくありません。日本でも最近になって、ようやくドメスティック・バイオレンスは単に家庭内の問題ではなく、社会的問題のひとつであると考えられるようになりました。ドメスティック・バイオレンスは、どの社会でも起こりうることです。

もしあなたがドメスティック・バイオレンスの被害にあわれていたら、大きな不安感、孤独感、恐怖感があるのではないのでしょうか。オーストラリアのドメスティック・バイオレンスについてあるいは相談機関について知っておくことはとても大切なことです。今回はドメスティック・バイオレンスの基礎知識を簡単にご紹介したいと思います。

ドメスティック・バイオレンスって？

家族のような親密な人との間で起こる暴力のことで、多くの場合は男性から女性への暴力行為です。オーストラリアではドメスティック・バイオレンスは広範囲に定義されています。夫、前夫、事実婚の夫、ボーイフレンドからの暴力ばかりでなく、同性や家族(親、兄弟姉妹、親戚)からの暴力もドメスティック・バイオレンスです。

こんな経験はありませんか？

ドメスティック・バイオレンスは身体的暴力ばかりではありません。オーストラリアでは次のような行為がドメスティック・バイオレンスと考えられています。ここにあげているのはそれぞれの暴力の一例です。

< 身体的暴力 >

平手打ちされる、げんこつで殴られる、蹴られる、突き飛ばされる、首を絞められる、髪を引っ張られる、腕をねじあげられる、刃物を突きつけられる

< 言葉の暴力 >

「役立たず」と大声でどなられる、「だれのおかげで生活できているんだ」と言われる、「...したら離婚する」、「別れるなら自殺する、殺す」と脅かされる

< 性的暴力 >

性的行為を強要される、避妊に協力しない、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる

< 精神的・心理的暴力 >

ばかにされる、ののしられる、殴るそぶりをして脅かされる、無視し続けられる、自分が劣っていると思わせる、子供を連れ去る、あるいは殺すと脅かされる

< 社会的暴力 >

実家や友人との付き合いを制限される、あるいは禁止される、外出や電話を細かくチェックされる、手紙を無断で開封される

< 経済的暴力 >

生活費を渡さない、金銭管理をする、就職させない

< 所有物・家屋への暴力 >

家具を壊す、大切にしているものを壊されたり、捨てられる、ペットをいじめられる

< つきまとい行為 >

後をつけてくる、監視される、電話、Eメール、携帯メール、ファックスで連絡してくる、家や職場の周辺を徘徊される

ドメスティック・バイオレンスの多くは犯罪です

身体的、性的暴力を振るうこと及び暴力を振るうという脅迫は犯罪です。つきまとい行為、結婚した相手からの望まない性的行為(レイプ)も犯罪になります。

自分を責めないで

もしあなたがここにあげているような経験をしているとすればドメスティック・バイオレンスの被害にあっているといえます。暴力を受けるのは自分に非があるからだと思いませんか？ドメスティック・バイオレンスは決してあなたのせいではないということを忘れないでください。気にいらなかったから、仕事のストレスがたまっているから、お酒を飲んでいるから、という理由で決して暴力は正当化されません。あなたは何も悪いことをしているわけではないのですから、自分を責めないでください。あなたの夫やパートナーはあなたをコントロールする手段として暴力を選んでいるのです。酔っていてもいなくても、暴力を振るう方にその責任があるのです。

子どものこと

あなたの夫やパートナーはあなたの子どもに直接、身体的あるいは性的暴力を振るったことがないかもしれませんが、それでも子どもはドメスティック・バイオレンスの様子を目撃しているかもしれません。子どもがドメスティック・バイオレンスから受ける身体的、精神的影響は計り知れないほど大きいといわれています。多くの子どもは恐怖、混乱、怒りの複雑な感情を抱いています。そして両親の間の暴力に対して、自分に何らかの責任を感じ、自分なりの方法で母親を守るようとしています。子どもによっては夜泣きやうつ症状になったり、成長しても対人関係がうまく築けなかったりする場合もあります。もし適切な支援がない場合、大人になった時にあなたのパートナーや夫と同じようにドメスティック・バイオレンスの加害者になってしまう可能性も否定できません。あなたの子どもは自分の気持ちや考えを口に出さないかもしれませんが、あなたがいつも気づかっていることを伝えるようにしてください。そして、暴力は子どものせいではないと言い聞かせるようにしてください。

おわりに

今回はオーストラリアにおいてドメスティック・バイオレンスは広義に定義されていること、そして犯罪行為となる場合もあること、ドメスティック・バイオレンスはいかなる理由があれ加害者に非があること、そして子どもへの影響は決して無視できないことなどをお伝えしました。次回はオーストラリアでドメスティック・バイオレンスを経験しているあるいは逃れようとしている女性たちに対する支援組織やシステムについてご紹介したいと思います。当記事で述べた内容は、ホープコネクションのホームページからリンクされているドメスティック・バイオレンスについての項目から抜粋、加筆したものです。各州別のドメスティック・バイオレンスおよび性的暴力の支援団体一覧も同リンクに掲載されていますので、ご関心のある方はホープコネクションホームページを是非ご一読ください。

<http://www.members.optushome.com.au/hopec/>

日系コミュニティ団体紹介：日本ベースボールリーグ・ヴィクトリア

日本ベースボールリーグ・ヴィクトリア(JBLV)は、1994年にメルボルンに滞在する日本人有志が集まり、軟式野球リーグとして発足しました。

現在登録されているチームは、発足当時と同じ4チームよりなっており、メンバーが変わりながらも続いています。各チームともそれぞれ独自の人脈を駆使し、メンバーを集めながら継続しています。

運営は、会長(フェニックス伊藤氏)、副会長(ベ이스ターズ長山氏)、会計(ファイターズ門田氏)、書記(ユナイテッド長坂(代))の4名と各チーム代表者が集まり、年数回会議を行い、運営方法を話し合います。

以下、4チームのご紹介です。

1)メルボルン・ベ이스ターズ

軟式野球リーグで最も優勝回数が多いチーム。

発足当時のチームは、メルボルンで観光ガイドを職業とした人たちが中心となって構成されています。

このチームが結成された後、自分たちだけで紅白戦をしても楽しくないという意見が出、チーム内の有志がチームを出て新たなチームを構成し、軟式野球リーグへと移行しました。

一時は選手確保に苦労しましたが、現在は、硬式野球をこちらで続けている人たちや、若い選手によって構成されている安定した力を持ったチームへと変貌してゆきました。

2)JCV・フェニックス

移民・永住者で構成されているヴィクトリア日本人クラブが中心とな

ったチーム。若いメンバーが多く、監督一人で平均年齢を上げていると言われていますが、ここも多くのメンバーを抱え、練習も十分にいき、底力のあるチームとなりました。メンバーも安定しており、毎リーグ戦で優勝争いに勝ち進んでくるチームです。

3)CTE・ファイターズ

日本人シェフ・食品関連の方で構成されたチーム。多くのメンバーが固定されており、当初は弱小チームでしたが年々力をつけてきています。優勝回数も2回。軟式野球リーグでは、ピッチャーの出来が試合を左右しますが、ファイターズには軟式野球リーグ最多勝を誇るピッチャーが中心となっており、安定した力を発揮していません。

4)メルボルン・ユナイテッド

メルボルンに駐在する各企業の駐在員により構成されたチーム。このチームは、だいたい3年でメンバーが大幅に入れ替わってしまいます。出張でメンバーが集まらないという欠点はあるものの、楽しい野球をモットーに参加を続けています。

日本のお家芸の一つとして数えられる野球。野球を通じての、日本人同士または、異業種間の交流を目的とし、誰もが安全に楽しめる野球リーグを目指し、活動を続けています。また、4チームのメンバーの出身地で分けた東西対抗戦、5年ほど前に一度だけ行ったシドニー野球連盟との交流戦なども企画し、幅広い交流を深めたいと考えています。

カルチャースクール 第30回 「オーストラリアの水事情」

毎回ご好評を頂いているホープコネクション・カルチャースクール。

今回は Japan Environmental Exchange の村越庸子さんをお迎えし、オーストラリアの水資源についてお話していただきます。天然資源の豊かな国オーストラリアですが、水だけは不足しがち。昨年からの水道使用制限は私たちにとっても身近な問題ですし、先日はヴィクトリア州政府の水利用に関する長期政策が発表されました。今回のセミナーを大切な水問題についての理解を深める機会にさせていただければと思います。加えて、節水のヒントなどもお話いただく予定です。

日時：8月14日(土)午前10時30分～正午

場所：Grattan Gardens Community Centre

40 Grattan Street Prahran 3181

Melway 2L H 10 (Prahran Market のすぐ南。Prahran Station から徒歩3分。)

費用：一人5ドル(コーヒー・紅茶、資料付)

お申し込み・お問い合わせ：0408-574-824 日本語電話相談(月～金曜日 10時～15時)まで。

または、E-mail: hopec@optushome.com.au まで。

チャイルド・ケアご希望の方、こんなことが聞きたいのご希望などありましたら、お申し込みの際にお知らせください。

会場・資料準備のため事前の申し込みをお願いいたします。当日の午後9時以降、0408-574-824 にて当日参加の受付もいたしますが、資料がお渡しできない場合もありますことをあらかじめご了承下さい。

JCV「実りの会」からセミナーのご案内

高齢者ケアとしてのアートセラピー

メルボルン大学、Fine Arts and Philosophy の登崎氏にお話を伺います。氏は今 Aged Care に使える Art Therapy のご研究中です。右脳と左脳、右半身と左半身、動かすことによってどのような視覚、記憶、身体機能に影響があるか、興味深いお話です。

日時： 7月21日(水)
会場：メルボルン日本人会オフィス Level 5, 350 Collins Street, Melbourne 3000, Office Phone: 9642-2120
会費：大人 \$5(会員)、\$7(非会員) モーニングティーを含む
連絡 申し込み先：みどり 0418 - 540 - 865 まり 9397-8421
注：上記会員には、日本人会、JCV、Hope connection の会員を含みます。

『青少年の犯罪について』 講師：萩原寛 領事 (JCVサポートネットワークと婦人部の共同緊急企画)

最近、日本での犯罪が低年齢化の傾向にあり、今回緊急企画として、この青少年の犯罪について考えたいと思います。日本で青少年の犯罪を専門に扱ってこられたメルボルン領事館の萩原領事をお願いして、ご前中はいろいろなケースを含めてのお話を伺い、午後はディスカッション形式でプロの立場からのアドバイスなどを伺いたいと思っています。低学年、ティーンエイジをお持ちの方、日本からの留学生をお世話されている方、また青少年の犯罪に関心のある方など、是非ご参加ください。

会場：メルボルン日本人会オフィス Level 5, 350 Collins Street, Melbourne 3000 Office Phone: 9642-2120
日時：8月12日(木) 午前10時30分～午後2時頃
会費：大人 \$2(会員)、\$4(非会員) 別に、昼食代を頂きます。
連絡 申し込み先：伊藤玲子 9790 - 0986 ヘーゼルウッドまり 9397-8421 秋元みどり 9572 - 3381
注：上記会員には、日本人会、JCV、Hope connection の会員を含みます。
*：日程は、変更の可能性がありますので、参加希望者は必ずご連絡ください。

特別企画 マーク・コーヘン教授特別講演

RMITでの代替医療学部創業者であり、栄養学、漢方、カイロプラクティスの研修者であるマーク・コーヘン教授の特別講演を企画いたしました。

私たちの食事は充分だろうか？総合ビタミン剤を飲んでいるけれど、効果があるのだろうか？飲む必要があるかどうかかわからない？日本人は「世界で一番の長寿」と言われるけれど、海外ノオーストラリアに住んでいる私たちがこの国の食習慣に慣れ、二世、三世になってオーストラリア人と同じ食生活をするようになれば、はたして大丈夫なのだろうか？といった疑問をお持ちの方々に。

Pharmanex 社が、Bioscanner という機械を5年がかりで完成しました。この機械は身体の中の抗酸化物(Anti Oxidant)の指数の尺度カイチノイドを読み取ります。このスキャナーで、健康に関する心配事項(ストレスの強い仕事にいる、たばこを吸う、家族にがんの患者がいた/いる、心臓マヒ、糖尿病、痴呆症にかかる心配...等)の指数を読み取り、現在の健康法・食事方法・ライフスタイルの分析をして改善することによって、高齢化社会にのぞみたいと思います。

会場の都合でお昼休み中になりましたので、サンドウィッチのような軽食を用意いたします。

日時：8月18日(水) 12:00 noon ~ 2:00 PM
会場：Monash Study Center Level 7, 30 Collin Street Melbourne VIC 3000
会費：大人 \$15(会員)、\$17(非会員) 軽食含む
連絡 申し込み先：みどり 0418 - 540 - 865 まり 9397-8421
注：上記会員には、日本人会、JCV、Hope connection の会員を含みます。

ホープコネクション電話相談のご案内

ホープコネクションでは、96年8月より日本語での電話相談を行っています。生活の中での困りごとのある方、相談相手がない方、悩み事を誰かに聴いてもらいたい方、お電話をいただければ、訓練を受けたボランティアの相談員と一緒に考えます。内容によっては専門家にご紹介もいたします。さらに現在ではマイグ란トリソースセンター(移民のための窓口となる公共団体)をはじめとする、オーストラリアのサービス機関とも協力、連携を深め、ネットワークを広げています。電話は匿名で構いません。秘密は厳守致します。(相談は無料ですが、携帯電話を使用しているため、時間単位の通話料金がかかります)

電話番号：0408-574-824 受付時間：月～金曜日 午前10時～午後3時まで

- Special Thanks to - 庭野平和財団、Good Neighbours Trust Fund、South Central Region Migrant Resource Centre、Moshi-Moshi ページ Pty Ltd.、メルボルン在住匿名希望の方、Victoria Multicultural Commission、伝言ネット、ユーカリ出版、Southern Sky、Education Logistics、JCV、豪日協会、佐川義人、Timothy McDonald、Michal Morris、洋子マフィー、NEC、メルボルン日本人会、大隈良謙、Sandra Roeg、SBS 日本語放送、天野行哲、加茂前千代、Christine J. Rodan、吉澤通明、山本和儀、Mark Preston、Stacey Steele、鈴木月子、田村真美(敬称略・順不同)